

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 19 年 12 月 20 日 開始 10 時 30 分 ~ 終了 15 時 30 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームありがとう (北海道)
評価調査員の氏名	氏名 大矢根 ひろ子 氏名 牧村 美保
事業所側対応者	職名 所 長 氏名 松川 佳弘 ヒアリングを行った 職員数 (1)人

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 12 月27 日

【評価実施概要】

事業所番号	175400365
法人名	特定非営利活動法人 ありがとう
事業所名	グループホーム ありがとう
所在地	紋別郡遠軽町西町2丁目1-218 (電話) 0158-42-8716

評価機関名	(有)NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成19年12月20日

【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 2 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤	6 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 8, 2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造従来工法造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	13,000~18,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(5年)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84, 1 歳	最低	78 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠軽厚生病院・遠軽学田病院・みずしま内科・アサヒ歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠軽町西町地区の住宅街に位置したL字型平屋建てのホームで、リビングには明かり取りの窓もあり、明るくゆったりした雰囲気が感じられます。大きな窓からは、雑木林、遠軽町のシンボルである瞰望岩を眺めることができ、自然の中で四季を感じることが出来ます。もう一方の窓はイルミネーションで飾られており、利用者はもとより地域の人々の楽しみとなっています。理念に「安心して、自由に、そして主人公として楽しく暮らせる住まい」を掲げ、ゆつくり楽しく暮らすことを大切に所長、管理者、職員は日々のケアに当たっています。理念とモットーは玄関、職員休憩所等に掲示し、共通理解に努めています。介護度の高い利用者が多いホームですが、協力医とも連携を取りながら利用者の立場に立ったケアを心がけています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>話し合いは多くの機会を持つ様に努力していますが、職員それぞれの事情もあり、全員揃う事が難しいという現状があります。運営理念は職員間で共有する様努めています。研修は月一度の遠紋地区の研修会に職員が交代で参加しています。他研修も状況に応じて参加する様に心がけ職員のスキルアップに繋げています。口腔ケアに関してはリビングから洗面所迄の距離を考え廊下に洗面台の設置を検討しています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>所長が職員の勤務状況を見、また、職員の話聞いて判断し、自己評価を作成しています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>現在、社協、民生委員、町福祉課等に声を掛けており、平成20年春には開催する予定になっています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>“家族だより”を3ヶ月に一度発行し、利用者の日々の暮らしを家族に伝えていましたが、現在休刊中となっています。玄関に意見箱を設置していますが、家族の訪問が多く、管理者、職員は家族の訪問を大切な機会と捉え、何でも言ってもらえる関係作りを心がけています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には入会していませんが、近隣住民、知り合い等が多く、地域の理解が得られています。踊り、大掃除等のボランティアが訪問したり、また、地域の警察に協力が得られる体制ができており、地域との繋がりが持っています。</p>

(有)NAVIRE

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が、地域の中でゆったり、楽しく、主人公として暮らし続けることができるように、独自の理念をつくりあげています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、ケアの中でやさしく、ゆったり、接することを心がけていますが、理念の共有については、意識づけがなされておらず、十分に話し合う機会がもてていません。	○	理念について職員とあらゆる機会を設け、話し合い、共有を図り、実践に結びつけていくことを期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していませんが、地域行事には観客として参加しています。組織的、計画的にはなっていませんが、近隣住民、知り合い等が多く、良い関係を築き、協力が得られる体制ができています。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は全職員が周知しておらず、評価の意義についても理解するまでにはいたっていません。自己評価は職員の意見等を聞き、所長が一人で作成しています。	○	評価について十分に話し合う機会を設け、全職員が理解した上で一緒に取り組み、サービス向上に活かすことを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ開催されていませんが、地域との交流、理解を得る大事な機会として捉え、来年早々の開催に向けて、準備中となっています。	○	運営推進会議の早期開催を望みます。また、地域に理解と協力を得るためにも充実した会議となり、ケアに結びつけることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは日常的に連絡を取り、要望、報告等を行い、サービスの向上に活かしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会頻度が多く、面会時を大切に、暮らしぶり、健康状態等を報告しています。また、状況によっては電話で連絡しています。金銭管理は預かり金がなくなった時に家族に連絡をし、出納帳のコピー、領収書を渡し確認印をもらっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していますが、実際の利用はなく、家族の面会時に要望、意見等を聞き取るよう努めています。	○	家族の意見交換の場として、家族会等を検討し、家族が意見、不満、苦情を言い出しやすいような工夫を期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限に抑えるように努め、利用者が安心して生活ができるように支援しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	遠紋地区で月一回開催されている研究会に職員は交代で参加しています。また、他研修についても、状況に応じて参加するよう心がけています。研修後の報告もされ、復命書を作成し情報の共有を図っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	遠紋地区の研修会に参加することで交流を図り、問題があった場合は、知恵を借りる等、活動を通じてサービスの向上に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と十分に話し合い、見学し、管理者が利用者宅を訪問する等、本人が安心してサービスが開始できるように努めています。また、職員は雰囲気馴染めるよう声かけ等の工夫をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が一方向的に介護するのではなく、利用者から教えてもらうことを大切に、共に喜び合えるように支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の言動、表情を把握し、声かけ、意向を引き出す工夫をし、希望に添えるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者は家族の面会時に意見、要望等を聞き出し、職員と話し合い利用者本位の介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については、定期的に見直しを行うとともに、期間が終了する前であっても利用者の状態の変化、家族の意見、要望、職員の気づき等で必要に応じて利用者の状態にあった介護計画に変更しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助、買い物、お茶会等利用者や家族の状況に応じて柔軟な支援をしています。また、状況に応じてショートステイも行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する医療機関に受診できるようになっています。受診結果については情報の共有がされています。また、歯科医とは必要に応じ、往診してもらえ仕組みができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時、終末期の対応については職員、家族等との話し合いがなされていません。	○	早い段階から職員、家族等と話し合う機会を作り、終末期に対する対応方針等について、検討することを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を傷つけないように、さりげない言葉かけ、接し方に努めています。個人記録、書類等の保管にも十分な配慮がされています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先することなく利用者のペースを尊重した起床時間、就寝時間、食事時間、買い物、散歩等一人ひとりの希望に添って支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族や地域の人の差し入れ等によって、メニューを変更することがあります。利用者の健康状態を把握し、食べやすいように工夫がされています。(温野菜、とろみ、きざみ等)また、楽しく食事できるように雰囲気作りを大切にしています。職員の見守りの中、食器ふき等をする利用者もいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を優先しますが、週2～3回の入浴を行っています。入浴拒否の場合は、タイミングに合わせた声かけ等の工夫をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野が発揮できるような場面作りをし、利用者の力が活かせるための支援をしています。利用者の日々の楽しみとなるように、職員が新聞の読み聞かせをしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望、状況等により散歩、買い物、公園での散策等の外出支援を行っています。また、近隣の町へ出かけることを楽しみの支援につなげています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	設立時より、日中は鍵をかけないことを徹底しています。利用者が一人で外出した際は声かけ、見守り等の体制ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は消火器、AEDの使用方法的訓練を行っており、連絡網等を作成し、職員の統一を図っています。また、地域の協力を得て避難訓練を実施しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量については、記録がとられており、水分不足と思われる場合はゼリー等で対応しています。また、家族と相談をし、利用者の状態に合わせて、(とろみ剤、きざみ食等)摂取しやすいように工夫しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の行事等を大切に、季節を感じ楽しめるように、居間、玄関等に飾り付けがされています。(節分、おひな様、七夕、クリスマス等)		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れた物が置かれ、安心して過ごせるよう工夫しています。また、家族と一緒に宿泊することもできます。		